

入選

小さな親切

長野県 赤穂中学校

一年 長野 かりん

私には、10歳年の離れた弟がいます。まだ、おむつもつけています。そして、おしゃべりが好きで、よく「絵本を読んで」とせがまれます。まだ小さいので、自分でできないことも多く、私や妹やお母さんがお世話をしています。

でも、私がやってあげようとする、「ママがいい」と怒って泣き出すこともあります。かわいいけれど、たまにイライラしてしまう私の弟です。

そんな弟ですが、たまにとってもいい子なときがあります。それは、お手伝いをしてくれるときです。小さい手で、お手伝いをしてくれて、あぶないと思うけれど、がんばっている姿を見て、見習おうと思ったこともあります。

それだけではありません。弟は言葉を覚えだして、自分の気持ちを素直に伝える、ととてもいい子なときがあります。それは……。

私と弟とお母さんの3人で、お出かけしたときのことです。私がお母さんを怒らせてしまって、車の中でとてもいやな空気になってしまいました。私が謝ればいだけだったのですが、どうしても「ごめんなさい」が言えませんでした。

そのとき、2歳の弟が私に、

「どうしたの？」

と言って顔をのぞき込んできました。私が、

「なんでもないよ。」と言うと、

「はい、あげるね。」

と言って、ティッシュを一枚取ってきてくれました。たぶん、弟には私が泣きそうに見えたのだと思いました。そして、「大丈夫？」と小さな手で、私の手を握ってくれました。

それを見ていた私とお母さんは、二人で笑い出してしまいました。決して、おもしろくて笑ったのではありません。ふだんは怒られてばかりで、手のかかる弟の優しい気持ちが嬉しかったからです。そのおかげで私は、「ごめんなさい」とお母さんに伝えることができ、そのあとは楽しくお出かけができました。

本当にささいな、小さな小さな優しさや親切で、もしかしたら親切に当てはまらないかもしれませんが、でも、弟が私のことを思って私のためにしてくれた行動で、私はとても心が温かくなりました。

私は、弟のように素直に行動することができないかもしれませんが、それでも、弟のしてくれたこと、そのおかげで心が温かくなったことを忘れずに、

「大丈夫？」

と手を差しのべることができる親切な人になればいいなと思いました。